

英語日常語彙の社会言語学的研究

山田政美*・田中芳文**

Masayoshi YAMADA and Yoshifumi TANAKA
A Sociolinguistic Study of Everyday English Words

【序論】

近年「異文化」を問題とする動きが活発であり、英語教育の分野にもそれを志向する徴候が出てきた。¹⁾ わが国で使用されているもろもろの英語教育教材を見ているとき、異文化、特にいまの一つの比較対象となる英米の文化の扱い方にはかなりの問題がある。あるいは、それらの教材を利用して実際の授業にあたる教師が十分な理解を得るにはあまりにも表面的な記述をするものが多い。英米の文化に浸ってそれを観察した経験がある教師にとっては問題は比較的少ないと思われるが、そうでない教師にとっては書かれた資料によることが多いとなれば、英米の文化がどのように記述されているかを検討することを始めねばならない。²⁾

英語・英米文化の少し新しい扱い例を *Mainstream I* (高等学校用文部省検定済教科書) で見てみると、すぐに目につくのがいわゆるファーストフード文化を扱った課である。³⁾ 脚注 (p. 24) では

fast food 「ファーストフード」ハンバーガー、フライドチキンのように注文してすぐ出てくる食品。
French fries (米) 「細長く切ったじゃがいものから揚げ」日本でふつう「フライドポテト」と呼んでいるもの。英国では **chips** という。

のような記述がある。おおよその情報は誤っていないとしても、教授する側にとってこれだけでは十分ではないはずである。この *fast food* の食文化が一般化した年代から考えてこの表現そのものも新しく、*RHD*² では初出年を1965-70年としている。しかし、いわゆるこのカテゴリーに入るかと思われるものがそれまでまったくなかったかといえ、そうではない。たとえば1850年代に出た

Boston baked beans が組み込まれた *baked beans and brown bread* は “an early home-delivered ‘fast food’ meal for Sunday eating” (Flexner 1982: 63) なのである。かなりの解説が『ジーニアス英和』にあるのはよいが、「米国の hot dogs, (ham) burgers, fried chicken」という例示でよいのか、つまり *pizza* が欠落しているのはよくないとか、fast-food restaurants の多くは drive-ins であることを理解している必要があるとか、この種の代表的なレストランには *pizza* に関連しては *Pizza Hut* があること (およびアメリカ社会で一般的なその他の *pizzeria* の固有名詞と背景的情報) を知るとか、などを考えると、やはり断片的な記述と言わざるを得ない。さらに、「日本の立食いそばなどが代表格」という記述も無理がある。*French fries* についても、なぜ *French* が入った表現であるのかがあまり書かれていない、といった問題がある。

本稿では、特に次のことを大まかな目安として、取りあえずはアト・ランダムに項目を拾い上げて検討してみたい。⁴⁾

- (i) 主に日常語彙を取り上げる。外国人の立場から考えた場合にいわゆる “survival English” と呼ばれるものの中に対象の多くがあると思われる。⁵⁾
- (ii) 日本語・日本文化と英語・英米文化との対照研究として意味があるものを取り上げる。日本語・日本文化に取り入れられたものであっても、本来のそれとは大いに異なる意味用法と文化をもつものも多いことは、たとえば日本語の中の借用語、俗にカタカナ英語とか和製英語と呼ばれるものを考えれば容易に察知できると思われる。

* 島根大学教育学部英語科教育（英語学）研究室
** 米子工業高等専門学校一般科目（英語科）

[本論]

1. Admissions

病院の掲示用語としては「入院受付」となる: Patients entering the hospital must first go to *Admissions*. *admission* という語については「Admission free, (掲示) 入場無料」(『ジーニアス英和』)のように掲示用語を示しているものがこの他にもあるので検討する必要がある。たとえば「～by ticket (掲示) 入場は入場券持参者」(『リーダーズ英和』)や No admission without tickets. (掲示) 切符なしでは入場できません」(『ジーニアス英和』)など。

2. Alterations

(掲示) Sometimes when you buy clothes, they don't quite fit. So, many stores have an alterations department. It will fix the clothes so they fit you.

この意味用法を示唆する適切な訳語と例, さらにここでの (掲示) の意味用法は辞書に収録されていない。

3. blind date

“What are you thinking about?” asked Maria.

He looked up and smiled. “I was just remembering how we met.

Maria smiled too. “Yeah, on a *blind date*, of all things. And I had promised myself never to accept another one.”

“Do you realize that if either of us said no, we probably never would have met?”

Maria nodded. “I know,” she said. “It’s incredible, isn’t it?” —*Life Styles 3*, p. 109

blind date は, *RHD*² に “1. a social appointment or date arranged, usually by a third person, between two people who have not met. 2. either of the participants in such an arrangement.”とあるように「ブラインドデート (第三者の紹介による面識のない男女のデート); ブラインドデートをする男 [女]」(『リーダーズ英和』)とするのはよいが, 『小学館英和中』が「盲デート (の相手)」のような訳語をつけるのは適切でない。なお, *blind date* の際のマナーや注意事項は Post (1975) にある。

4. club sandwich

Paula handed him the menu and began to butter

a piece of bread. The waiter turned to Marilyn. “And what would you like?”

“I’ll have a *club sandwich* on rye and a green salad. Do you have Russian dressing?”

“I’m sorry, we only have Italian, French and Roquefort.” —*Life Styles 2*, p. 39

sandwich については既に山田 (1983) において分析を試み, その中で *club sandwich* についても言及したが, 英和辞典類には次のような不十分な記述が多い。

(米) クラブサンドイッチ (パン切れ 3 枚重ねの間にレタス, 肉, トマトなどを挟む)

(『グローバル英和』)

(米) 通例 3 枚重ねのトーストに肉やレタスをはさんだサンドイッチ (『小学館英和中』)

(主に米) (通例 3 枚重ねの) クラブサンドイッチ (チキン・ハム・レタスなどをはさむ)

(『ジーニアス英和』)

クラブサンドイッチ (通例 3 枚重ねで, 間に鶏肉・ハム・トマト・レタスなどをはさんだもの)

(『リーダーズ英和』)

つまり, *sandwich* については, (i) パンは何枚重ねるのか (layer), (ii) 調理方法 (cooking process), (iii) サイズ/形, (iv) パンの種類, (v) 挟む材料 (filling), (vi) パンに塗るもの (lubricator) などの点に注目する必要があり, それぞれの英和辞典には情報が欠落している部分が多い。次の点を明らかにしておきたい。

1) **bread**: 通例 [+three slices]/ [+toasted] もともとはパン 2 枚を使ったもので, 3 枚重ねのものには特別の呼称があって “a horror” と呼んだという (cf. Beard 1972)。

2) **filling**: [+chicken or turkey, bacon or ham, lettuce, tomato slices] cf. “cold chicken or turkey” (*RHD*²)

3) **lubricator**: [+mayonnaise]

また, *club sandwich* は, *clubhouse sandwich* と呼ぶこともあり, 男性のための社交クラブで出したものであるらしいことが分かる。この語が印刷に現われた最初は Ray L. McCardell, *Conversation of a Chorus Girl* (1903) である。James Villas によると “streamliner trains” の二階建て “club cars” で提供されたものだという (*New York Times*, Mar. 9, 1983)。あるいは Richard Canfield (1865-1914) が New York 州 Saratoga の Saratoga Club を買い取ってカジノにしようと考えた。このクラブで出されたサンドイッチがその名の

起源だという説もある。

なお、「英米のサンドイッチはスライスしたパンをそのまま使うことが多いが、日本のサンドイッチは通常は耳を切り取ったパンの間に具をつめ、それをさらに小さく切る。日本の小さく切ったサンドイッチはアメリカの finger sandwich に近い」(加島ほか 1987)点は留意してよい。通例日本語では「サンド」と短縮され、カツサンド、ハムサンド、ミックスサンド、ロールサンド、エッグサンドなどがあることから、別に言及する (cf. 15) クリームサンドやジャムサンドとの表現上からの混同を招くことになる。

5. cocktail party

party の一つである *potluck party* については、山田 (1988) で検討している。

cocktail party は「カクテルパーティー(カクテルの出る形式ばらない会合)」(『ライトハウス英和』)とあるように informal なものであること、飲み物はカクテルが中心であることはよい。「カクテルパーティー(カクテルや軽食を中心の略式パーティー；夕食前にすることが多い)」(『グローバル英和』)とあるが、軽食の中身については、*RHD*² からオードブル (*hors d'oeuvres*) やカナッペ (*canapés*) であることがわかる。夕食前という時間帯については、5〜7時ごろとするものがある。⁶⁾ エチケット教本には必ずこのパーティーの催し方について詳しい解説がある。「立食パーティー」(『小学館英和中』)は一つの具体的なイメージを与えるには役立つ。

cocktail hour について *Web*³ は “the hour when cocktails are customarily served usu. just before dinner or between four and six in the afternoon” としているが、英和辞典類の記述にはずれが見られるので検討する必要がある。

(ホテル・レストランの) カクテル＝アワー (通例夕食前の午後5—8時頃)

(『ジーニアス英和』)

カクテルアワー：午後5時から8時ごろまでの夕食前の時間 (『小学館英和中』)

カクテルアワー (dinner 直前、または午後4—6時ごろ) (『リーダーズ英和』)

6. DDS, D. D. S.

Doctor of Dental Surgery の略で、歯科医師のタイトルに使っている：Mary Smith, DDS, is our dentist. また、MD, M. D. は *Medicinae Doctor* (=Doctor of Medicine) の略で次のように使っている：John Jones,

MD, is a surgeon.

合わせて、アメリカの医師の診療室 (office) には、資格を取得した卒業大学の修了証が掲げられているという文化を知っておくのがよい。



—EPS

“You need a rest too, Doc
—how about a game of golf?”

(『時事英語研究』 Vol. 23, No. 8 (Aug. 1968), p. 27 所載)

7. doggie bag, doggy bag

『ジーニアス英和』には「(米) (レストランなどで食べ残した物の) 持ち帰り用の袋」とある。ペットの犬のために持って帰るからと頼んだことからこの名がついたが、少くとも現在においてはそれは表向きの理由にすぎない。⁷⁾

また、食べ残した物を何でも持ち帰るためのものかどうかについては、*Web*³ *Addenda* (1981), *RHCD* によれば “esp. meat” であって、この点については『小学館英和中』が、「レストランで食べ残した肉などを持ち帰るための袋」としているのがよい。

具体的にどのような袋なのか、『旺文社英和中』『サンライズ英和』にはいずれも「食べ残り入れの紙袋」とあるが、単なる紙袋ということではないから検討が必要である。

さらに、この袋については次のような情報もある。

Servings in restaurants are often large—too large for many people. If you can't finish your meal but would like to enjoy the food later, ask your waitress or waiter for a “doggie bag.” It may have

a picture of a dog on it, but everybody knows you're taking the food for yourself. (Church and Moss 1983 : 68)

印刷されて使われた初例は1963年で、1970年代までにごく一般的な風習になった。

It is perfectly all right to ask for a doggie bag if you have an excellent piece of meat that you cannot finish, provided there are enough waiters to ensure that making such a request is not too great an imposition on the staff. Whether the meat is for you to reheat tomorrow with a bit of homemade sauce Béarnaise, or whether it will go into your child's lunch box between two pieces of bread, the doggie bag is here to stay. Do not make a big thing out of your request of the waiter; do not try to draw attention to or laughs out of it. Do it quietly and discreetly. (Baldrige 1978 : 688)

おいしいが食べ切れないということで持ち帰ることは別にいやしいことでもない。このような風習はアメリカ独特のレストランだけではなく、たとえば Seattle の韓国料理店では食べ切れないほどのキムチを特製の柄が付いたパラフィン紙 (waxed paper) 製の小箱に入れてくれる。

8. house call

「(医者)の往診」(『ジーニアス英和』)では狭いが、「家庭訪問；(医者)の往診」(『ライトハウス英和』)では「家庭訪問」の意味内容が不明瞭で誤解を招く。その点は「(医師・看護婦などの)往診；(修理人・セールスマンなどの)家庭訪問」(『リーダーズ英和』)がよいが、具体的に「往診」をする職業の提示の仕方にはまだ問題がある。WBDのように“therapist”を示すとか、OED Supplement (1976)のように“chiropractist”を示す例がある。この語は比較的新しい (cf. RHD²)。

9. housewarming, housewarming party

Tony : Oh, hi, Paula. How are you?

Paula : Just fine. Listen, I'm having a *housewarming party* Saturday night. Would you like to come?

Tony : Sure. What time?

Paula : Any time after eight. Here's an invitation. —*In Touch 2*, p. 57

通例「新築祝いのパーティ」と書かれているが、次の記述を検討するとよい。

A housewarming (a cocktail party with a purpose) is usually given by the person or the couple in honor of their new home, but sometimes a housewarming is given *for* a recently moved-in family to welcome them. For someone who is already known in the community, but who has simply changed houses, this party is to show off the new house and greet old friends. For newcomers to the community, the housewarming has a different purpose: one invites all one's neighbors on the street, the few people the family has already met, and the pastor or rabbi, the children's teachers, and the pediatrician, lawyer, and doctor, and their families. (Baldrige 1978 : 345-346)

また、Post (1975 : 359) でもこれが *cocktail party*, あるいは *cocktail buffet* であることが書かれているが、一般の辞書には欠落した情報である。

10. laundry

この語については既に山田 (1987) で検討を試みたので、ここでは用例をあげておく。

“OK. What kind of detergent?”

“Tide.”

“What size?”

“Oh, medium—about like this.” Ray showed her the size with his hands.

“The big size is cheaper,” commented Paula.

“Yeah, but it's too big to carry to the *laundry*.”

—*Life Styles 3*, p. 57

laundry room については『リーダーズ英和』が「洗濯室」として収録している。

Grace : Where did you lose it?

Ruth : I'm not sure, but I think I left it here in the *laundry room*.

Grace : I found a sweater here the day before yesterday.

Ruth : You did? What does it look like?

—*In Touch 2*, p. 39

11. level

劇場やスタジアムのような建造物で、たとえば3階の階指示掲示に *Level 3* といった表現がある。あるいは、「C'mon, only two more *levels* to go.」のように使う。

『グローバル英和』『ジーニアス英和』にはいずれも「(建物などの)階」という記述がある。また、鉱山の水平坑

道を指して“an accident on level three of the mine” (その鉱山の第3坑道で起こった事故) (LDCE⁸) などという表現で使う。

12. nurse

医療制度が異なる場合、当然のことながらそれに伴った呼称がある。registered nurse (略称: R. N.) (正 [登録] 看護婦), licensed practical nurse (略称: L. P. N.) (州などの正式免許をもつ 准看護婦), practical nurse (准看護婦: 正規の訓練は受けていないが実地経験がある), trained nurse (養成所出身の) 正看護婦 [= graduate nurse] その他の表現を整理検討したい。⁹ 確かに、『ジーニアス英和』は米国における nurse の種類を解説しているが、十分ではない上に、記述に疑義がある。

さらに, scrub nurse, また dry nurse, wet nurse という呼称と内容を理解しておくのがよい。また, 看護婦への呼びかけ語として BrE では sister が使われる。

13. onion rings

fast food restaurant では日常的な語であるが, (1)薄く輪切りにした生のタマネギ, (2)=French-fried onion rings (タマネギの輪切りに衣をつけて揚げたもの) (脇山 1983²) がよい。cf. “Cookery. rings of sliced onion, dipped in batter and deep-fried.” (RHD²)

14. pajama party/slumber party

いずれの語も10代の女の子たちがその中のひとりの家に集まり, 寝巻き (nightclothes), 特にパジャマ姿で一夜を過ごすパーティーを指す語である。pajama party はパーティーの際の服装, slumber party はパーティーの際の状態によって名づけられている点異なる。¹⁰ 英和辞典類では、『サンライズ英和』『ニュー・アンカー英和』『ライトハウス英和』などがいずれの語も収録していない。また、『研究社英和中』は slumber party について「(米)パジャマパーティー (10代の少女たちがパジャマ

姿で一夜を語り明かすパーティー)」としながらも, pajama party を収録していない。

パーティーでは, おしゃべり (talk) をしたり, 食べたり (eating), ゲーム (game) をして過ごすことが WNWD から分かる。女の子だけに限定しなくてよいことは RHD² などを参照して検討したい。

いずれにせよ, sweet-sixteen parties の一つ。この sweet-sixteen parties はその内容により呼称が変えられる: theater party, weekend house party, swimming-pool party. (cf. Post 1975)

このほか, きわめてアメリカ的であるものに BYOB (<Bring Your Own Bottle) party, BYOF (<Bring Your Own Food) party がある (cf. Post 1975)。

15. pie

Tony: Excuse me, miss. How much is a piece of pie?

Waitress: 95 cents.

Tony: What kind do you have?

Waitress: Chocolate, lemon and apple.

Tony: I'd like apple, please.

Waitress: Would anybody else like dessert?

—In Touch 1, p. 68

pie は『ライトハウス英和』のように「(小麦粉とバターをこねて, 果物または肉などを詰めて焼いたもの)」と記述しているが, いま一つはデザートとしての “a layer of cake split in half horizontally and spread with a custard, cream, or jam filling” (Web³), つまり sweet pie もある。さらに, 『リーダーズ英和』が, 「パイ (肉または果物などを小麦粉の生地に入れて焼いたもの); *フルーツパイ (tart); クリームサンド, ジャムサンド」としているところでは, 下線部については呼称と, それが指示するものとの間に誤解が生じやすいことが分かる。¹¹ いま一度 folk taxonomy の観点からの分類から始めたいものである。(下図を参照)

something to eat

sandwich		pie		ice-cream bar
hamburger	ham sandwich	apple pie	cherry pie	Eskimo pie

(cf. Frake 1962, 山田 1983)

16. Place Order Here

fast food restaurant で見掛ける掲示で、注文をする場所と注文した食べ物を受け取る場所が異なる仕組みになっている。あるいは、注文品を席まで持って来ることもある。place + an order の共起関係に留意する。

17. skin care

化粧品関連語で比較的新しい語である。特に顔と手の肌の手入れのこと。“the cleansing, massaging, moisturizing, etc., of the skin, esp. the face or hands.” (RHD²) の定義がよいが、hair-care は収録されていない。

Afro-Sheen (Johnson Products Company, Inc.製) は “hair-care products” の商品名である、Bikini (Helena Rubinstein, Inc.製) は “skin-care products” の商品名である、というように使う。

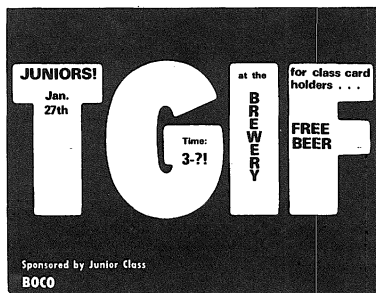
18. surprise party

surprise party については、「びっくりパーティー」(『グローバル英和』) や「不意打ちパーティー」(『ライトハウス英和』) などとあるが、いずれにしても、主賓が知らない間にこっそり準備して驚かせるパーティーである。¹²⁾ 具体的にどのような場合に計画されるかということについては、次の記述が参考になる。

Surprise parties are very popular in the United States. They are frequently planned for birthdays and wedding anniversaries. (Lanzano 1982: 7)

19. TGIF party

アメリカの大学生が金曜日に集まって騒ぐパーティー。この語の語源については既に H. L. Mencken が取り上げているが、DAE には1733年までに既に ‘a social gathering’ の意味用法が確立していることを記録している (cf. Mencken 1963: 115-116)。



Notes :

- 『日本英語教育学会 (JELES) 関西支部研究集録——創刊10周年記念号』(1986) では、「これからの英語教育のあり方を考える——異文化理解の指導について——」とする特集が組まれている。収録論文のいずれも論究に欠け、ただ実践報告として読めば読めなくはない。特別寄稿の小笠原林樹「英語教師は「文化」面を教えているであろうか?」は示唆的であるが、体系だった論究ではない。
- 依然として、この問題を扱った基本的な文献は Lado (1957) である。
- Mainstream I: The New Comprehensive English Course*, Second edition, 増進堂, 1988. なお、この課の source となった Lewis Jones, *Fast Food*, Logman, 1983. は参考になる。
- なお、関連して山田 (1987, 1988) では, *laundry, pencil, a carton of eggs, bean bag, place mat, table mat, doormat, welcome mat, tin-can telephone, Daylight Saving Time, sidewalk stand, potluck party, great seal* などが検討されている。
- 日本人学習者向きとはいえないが、Jim Richey には *Survival Vocabulary* シリーズ (10 workbooks) と *Sign Language* シリーズ (4 workbooks) (Hayward, Calif.) がある。
- 『アメリカ日常語カタログ』(別冊 *The English Journal*), アルク, 1985, p. 104.
- 次の記述について検討する必要がある。「なお *doggie bag* で人間が食べるのは犬に対して失礼だということで, *people bag* と呼ぶレストランもある。」(『アメリカ日常語カタログ』別冊 *The English Journal*, アルク, 1985, p. 49)
- 鉦山での “level” が図示されている。
- 次の記述についても検討を要する。「また, *private nurse* というのは付添人で, 入院患者 (inpatient) の希望でおくことができるが, これも看護婦の資格のある人に限られる。」(『アメリカ日常語カタログ』別冊 *The English Journal*, アルク, 1985, p. 145)。また、岡本 (1984)。
- また, *slumber party* が, AmE であることは *OED Supplement* (1986) にある。またカナダ英語でもある。「リーダーズ英和」が *slumber party* を BrE であると記号表示しているのは誤りであろう。
- クリームサンドイッチ クリームをはさんだビスケットのサンドイッチ (あらかわ 1977²)。また「サ

ンドビスケットはカスタードクリームをサンドしたビスケット」(『中日新聞』1956年10月19日号)。

- 12) *surprise party* について『研究社英和中』が何の説明もなしに「(主賓には知らせないで準備する)不意打ちのパーティー; 奇襲攻撃隊」とする下線部分は適切ではない。

References :

- あらかわ そおべえ (1977²), 『角川外来語辞典』第2版。角川書房。
- Baldrige, Letitia (1978), *The Amy Vanderbilt Complete Book of Etiquette*. Garden City, New York : Doubleday.
- Beard, James (1972), *James Beard's American Cookery*. [In Mariani (1983)]
- Church, N. and A. Moss (1983), *How to Survive in the U. S. A. : English for Travelers and Newcomers*. Cambridge : Cambridge University Press.
- Flexner, S. B. (1982), *Listening to America*. New York : Simon and Schuster.
- Frake, Charles O. (1962), "The Ethnographic Study of Cognitive Systems," in Gladwin, Thomas A. and William C. Sturtevant (eds.) (1962), *Anthropology and Human Behavior*. Washington, D. C. : Anthropological Society of Washington, pp. 72-85.
- 加島祥造, 山本千之, 坂田俊策(編) (1987), 『研究社カタカナ英語辞典』研究社出版。
- Lado, R. (1957), *Linguistics Across Cultures*. Ann Arbor, Michigan : University of Michigan Press.
- Lanzano, S. (1982), *Life Styles, Teacher's Manual 2*. New York : Longman.
- Mariani, John F. (1983), *The Dictionary of American Food and Drink*. New York : Ticknor & Fields.
- Mencken, H. L. (1963), *The American Language*. One-volume abridged edition. New York : Alfred A. Knopf.
- 岡本祐三 (1984), 『アメリカの医療と看護——その光と影——』保健同人社。
- Post, Elizabeth L. (1975), *The New Emily Post's Etiquette*. New York : Funk & Wagnalls.
- 脇山 恰 (1983²), 『海外暮らしの用語事典』改訂版。ジャパントイムズ。
- 山田政美 (1983), 「Ethnography of Sandwiches」, 『中国地区英語教育学会研究紀要』No. 13, pp. 105-109. (1987), 「英語の語彙・表現の辞書記述における問題」, 『英語教育と英語研究』第4号, 島根大学教育学部英語教育研究室, pp. 67-77.
- _____ (1988), 「英語の語彙・表現の辞書記述における問題(2)」, 『英語教育と英語研究』第5号, 島根大学教育学部英語教育研究室, pp. 43-60.
- 辞書 : ([]内は本稿で用いた略記。英和辞書類の出版年は使用した版による)
- A Dictionary of American English on Historical Principles*. Chicago : University of Chicago Press. 1938-1944. [DAE]
- Longman Dictionary of Contemporary English*. New edition. London : Longman. 1987. [LDCE²]
- A Supplement to the Oxford English Dictionary*. Vol. II. Oxford : Oxford University Press. 1976. [OED Supplement (1976)]
- A Supplement to the Oxford English Dictionary*. Vol. IV. Oxford : Oxford University Press. 1986. [OED Supplement (1986)]
- The Random House College Dictionary*. Revised edition. New York : Random House. 1979, 1980. [RHCD]
- The Random House Dictionary of the English Language*. Second edition. New York : Random House. 1987. [RHD²]
- Webster's New World Dictionary of the American Language*. Second college edition. New York : William Collins and World. 1970², 1980. [WNWD]
- Webster's Third New International Dictionary of the English Language*. Springfield, Mass. : G. & G. Merriam. 1961. [Web³]; Addenda Section. 1981. [Web³ Addenda (1981)]
- The World Book Dictionary*. Chicago : World Book-Childcraft International. 1979. [WBD]
- 『ジーニアス英和辞典』大修館書店。1987。[[ジーニアス英和]]
- 『ライトハウス英和辞典』研究社。1984。[[ライトハウス英和]]
- 『ニュー・アンカー英和辞典』学習研究社。1988。[[ニュー・アンカー英和]]
- 『旺文社英和中辞典』旺文社。1975。[[旺文社英和中]]
- 『小学館英和中辞典』小学館。1980。[[小学館英和中]]

- 『リーダーズ英和辞典』研究社。1984。[『リーダーズ英和』]
 『新英和中辞典』第5版。研究社。1985。[『研究社英和中』]
 『グローバル英和辞典』三省堂。1983。[『グローバル英和』]
 『サンライズ英和辞典』旺文社。1986。[『サンライズ英和』]

Textbooks : ([] 内は本稿で用いた略記)

- Castro, O. and V. Kimbrough (1980), *In Touch, Student's Book 1*. New York : Longman. [*In Touch 1*]
 _____ (1980), *In Touch, Student's Book 2*. New York : Longman. [*In Touch 2*]
 Lozano, F. and J. Sturtevant (1982), *Life Styles, Student's Book 2*. New York : Longman. [*Life Styles 2*]
 _____ (1982), *Life Styles, Student's Book 3*. New York : Longman. [*Life Styles 3*]